

集団的コホート研究による CIN3 発症後のヒトパピローマウイルス関連癌と前癌病変の長期的リスクの上昇

Long-Lasting Increased Risk of Human Papillomavirus-Related Carcinomas and Premalignancies After Cervical Intraepithelial Neoplasia Grade 3 : A Population-Based Cohort Study.

Ebisch RMF et al

J Clin Oncol May 25; JCO2016714543, 2017

背景 ハイリスクヒトパピローマウイルス (human papilloma virus ; HPV) 感染は子宮頸部上皮内腫瘍 (cervical intraepithelial neoplasia ; CIN) 病変の発症のみならず中咽頭・会陰・膣・肛門癌といった HPV 関連癌や前癌病変のリスク上昇にも関係している。本研究は CIN3 と診断された女性のその後の HPV 関連癌や前癌病変発症のリスクを調べるために行われた。

方法 オランダの病理登録データベースを用いて、1990～2010 年に CIN3 と診断された女性と、コントロール群として同数の対応させた非 CIN 女性の、1990～2015 年の外陰癌、膣、肛門、中咽頭の癌と前癌病変発生頻度の相対危険度を求めた。

結果 178,036 人の女性のうちそれぞれ 89,018 人ずつに振り分けたところ、CIN3 既往のある女性では HPV 関連癌と前癌病変のリスクは上昇した。相対危険度は、肛門癌では 3.85 (95%信頼区間 2.32-6.37)、肛門上皮

内腫瘍は 6.68 (95%信頼区間 3.64-12.25)、外陰癌では 4.97 (95%信頼区間 3.26-7.57)、外陰上皮内癌グレード 3 では 13.66 (93%信頼区間 9.69-19.25)、膣癌では 86.08 (95%信頼区間 11.98-618.08)、膣上皮内癌グレード 3 では 25.65 (95%信頼区間 10.50-62.69)、中咽頭癌では 5.51 (95%信頼区間 1.22-24.84) であった。これらの癌や前癌病変発症リスクは 20 年間という長期にわたって上昇していた。

結語 本研究により、CIN3 と診断された後の肛門・性器および咽頭領域の HPV 関連癌や前癌病変発症リスクは長期間増加することが示された。CIN3 と診断された女性に対して、積極的なスクリーニングの実施やワクチン接種など、リスクへの対応方法を検討することが必要であろう。

(滋賀医科大学産科学婦人科学講座 松本有美 抄)

ドーパミンアゴニストは OHSS を回避する

Dopamine agonists for preventing ovarian hyperstimulation syndrome.

Tang H et al

Cochrane Database Syst Rev: CD008605, 2016

背景 卵巣過剰刺激症候群 (ovarian hyperstimulation syndrome ; OHSS) は体外受精にかかわる重篤な合併症であり、腹部膨満、静脈血栓、臓器血流障害を伴う。体外受精を施行した症例の多くは軽症で済むが、3～8% は中等度～重症の OHSS を発症する。OHSS 発症のハイリスク女性における、ドーパミンアゴニスト (cabergoline, quinagolide, bromocriptine) の有効性と安全性について検討する。

方法 2016 年 8 月までの複数のデータベースより、ドーパミンアゴニストの効果を評価した RCTs を集積して検討した。主たる評価項目は中等度または重症 OHSS の発症率と出生率、副次的項目は妊娠率、多胎率、流産率、合併症である。

結果 16 の RCT から 2,091 人の OHSS ハイリスク女性について検討した。プラセボ群/無治療群と比較した場合、ドーパミンアゴニストは中等度～重症 OHSS を回避する効果があった (OR 0.27, 95%CI 0.19-0.39)。出生率、妊娠率、多胎率、流産率に差はなかつ

たが、消化器症状の副作用は増加した (OR 4.54, 95%CI 1.49-13.84)。また、ドーパミンアゴニストを、アルブミンと比較すると、中等度～重症の OHSS のリスクを低下させた (OR 0.21, 95%CI 0.12-0.38) が、HES 製剤、プレドニゾロン、コースティング療法とは有意差を認めなかった。ただし、妊娠率はコースティング群より上昇した (OR 2.65, 95%CI 0.12-0.38)。その他、ドーパミンアゴニストに点滴加療 (HES 製剤、アルブミン製剤) を併用した群と点滴加療のみの群とを比較するとすべての結果に差はなかった。

結論 ドーパミン作動薬は OHSS ハイリスク女性において中等度～重症 OHSS の発症率を減少させる。副作用として消化器症状が増加するかもしれないが、新鮮初期胚移植が行われたとしても妊娠予後には影響しない。今後はほかの治療法との比較や併用療法の検討が必要である。

(滋賀医科大学産科学婦人科学講座 竹林明枝 抄)